

令和4年度
こころ医療福祉専門学校佐世保校
学校自己評価結果報告書

令和5年4月1日

令和5年2月 8日（水） 令和4年度学生・教職員アンケート実施
令和5年2月 28日（火） 令和4年度学校自己評価報告書 運営会議提出
令和5年3月 6日（月） 令和5年度学校経営目標 運営会議議題提出
令和5年3月 15日（水） 学校自己評価報告書 本部提出

※教職員・学生アンケートと学校自己評価との連動基準

教職員・学生アンケート評価基準3.1～4.0→学校自己評価「4」

教職員・学生アンケート評価基準2.1～3.0→学校自己評価「3」

教職員・学生アンケート評価基準1.1～2.0→学校自己評価「2」

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン
（平成25年）準拠

1. 学校の教育目標 令和4年度

- 1 学園ビジョン
地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる。
- 2 学園ビジョン実現に向けたテーマ
地域社会から必要とされる組織であり続ける。
地域社会から必要とされる人材を提供する。
- 3 学校経営スローガン
各学科の「専門力を含めた人間としての総合力」の育成
- 4 重点教育目標
(1)授業の充実と国家試験合格率及び就職率100%達成
(2)自立する職業人・社会人の育成
(3)留学生教育の充実と基本的な生活習慣の確立
(4)「個人自己評価」と「学校自己評価」の実施による資質向上と学校活性化
(5)学園体制としての広報活動と募集の広域化—新入生確保数25名以上
- 5 具体的な対策
(1)「授業の充実」を通じた「教育の質」の向上
(2)自立する職業人への準備教育の推進
(3)退学者・不登校生の減少対策の推進
(4)国家試験・進路指導の充実
(5)留学生教育の質の向上と基本的な生活習慣の確立
(6)「個人自己評価制」の導入と職員のスキルアップ
(7)「攻めの学生募集」による25名以上の学生確保
- 6 地域社会等との豊かな関係づくり
(1)学園グループビジョン「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」の具現化
(2)関係各校、機関、施設等との連携強化

2. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画

- (1) 「授業の充実」を中心に置いた学校経営の推進
 - ①「教育の質」の向上を通じた学生や保護者の願いに応える教育の推進
 - ②学生の「意思ある学び」に繋ぐ教員の学生指導力と学級経営力の向上
 - ③学生の多様化・学力低下傾向に対する創意工夫と粘り強い指導の推進
- (2) 国家試験合格率及び就職率100%達成
 - ①各学科の「国家試験年間指導計画」に基づく計画的・組織的な指導の推進
 - ②「学科会」の定例化と「模擬試験結果分析会」や「学力検討会」の開催
 - ③個を重視した「キャリア教育」と年間指導計画に基づいた就職指導の推進
 - ④「導入期教育」と「卒後教育」の充実
- (3) 留学生教育の質の向上と日本語能力試験N4以上全員合格の達成
 - ①留学生の指導体制の構築と学園内連携の強化
 - ②日本語能力試験での全留学生のN4以上合格達成と進路開拓
 - ③日本の基本的な生活習慣の確立
- (4) 学校体制として取り組む学生募集—最低確保学生数20名
 - ①高校との連携強化と信頼関係の構築—学校訪問・情報提供・広報啓発等
 - ②学校体制としての学習募集の推進—広報課を中心に全職員で取り組む学生募集
- (5) 報告・連絡・相談等による情報の共有と職場の活性化
 - ①すべては初期対応が命と考え、早めにまめにを基本とする
 - ②学科会を定例化し、情報の共有を図る
 - ③独りよがりな判断、対応をせず、学校としての的確な対応をする

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1	専門性の高い知識や技能と豊かな人間性あふれる人材育成を目指し、就職支援を通じて社会に貢献する理念が学生便覧等に明確に定められている。 【教職員アンケート質問1 3. 4】
・学校における職業教育の特色は何か。	④	3	2	1	専門的な経験の持った専任教員によって、業界との連携を重視し技術の修得のみならず学園理念に基づき、人間性溢れるプロフェッショナルを目指す人材育成に努めている。
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	④	3	2	1	本学園が経営する4事業間との連携を通して、将来を見通した社会や関連業界のニーズに応じるための学校経営を計画している。
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係者等に周知されているか。	4	③	2	1	入学前のオリエンテーションや入学後は、保護者面談やHP、こころ新聞等で周知活動に努めている。コロナ禍で課題は残った。 【教職員アンケート質問2 2. 9】 【学生アンケート質問1 3. 4】 平均3. 2
・各学科の教育目標, 育成人材像は, 学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	③	2	1	年2回(7月、11月)の教育課程編成委員会を通して、情報交換を通して学校・学科運営に反映させている。

①課題

・教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会における、関連業界との情報共有や改善提起
--

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・関連業界と情報を交換・共有し、業界や地域に貢献できる心豊かなプロフェッショナルの育成に努める。 ・学園理念や教育目標について、インターネット・保護者面談・配付物等により、周知の機会を増やす。 ・配布物(こころ新聞・パンフレット・グッズ等)の内容を充実させる。
--

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	④	3	2	1	「地域の医療福祉を包括的に支援する」という本学園の理念を実現するために、より実践的な教育をめざした運営方針が策定されている。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	③	2	1	毎年度、学園教育理念、学園ビジョンに沿って年度初めに具体的な学校経営目標が策定されている。 【教職員アンケート質問3 3.0】
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4	③	2	1	組織図、各種会議を設置し、活動計画を定めている。また議事録を回覧し職員への周知を図っている。 【教職員アンケート質問3 3.0】
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	④	3	2	1	就業規則により整備されている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	④	3	2	1	学園法人本部のもと、整備されている。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	③	2	1	法令に基づいた企業活動に努め、地域行事への参加、学校評価委員会等を通して、業界及び地域との関係は良好に保持されている。
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	④	3	2	1	HP、オープンキャンパス、ガイダンス、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会、こころ新聞等を通して、情報公開をしている。 【教職員アンケート質問4 3.4】
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	③	2	1	OA機器の導入、共有サーバーの構築をすることで、業務の効率化を図っている。

①課題

・学校全体の問題と捉えて、各会議を通して情報の共有や報・連・相の徹底

②今後の改善方策

・個人自己評価・自己目標シートを用いて、具体的な目標・実施計画を立て、実現に向けて実践をする。
・各部署における会議で検討し、建設的な議論を重ね改善に努める。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3	2 1	本学園の教育理念に基づき、実践的な職業教育が編成・実施されている。 【教職員アンケート質問5 3.0】
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	3	2 1	養成施設指定規則に則った修業年限や学習時間が設定され、目標とする到達レベルが明確にされている。 【教職員アンケート質問6 3.3】
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	3	2 1	体系的に編成されている。 【教職員アンケート質問7 3.6】
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	3	2 1	関連企業との連携をとり、より実践に近い職業教育の工夫に努めている。 【教職員アンケート質問8 3.4】
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	4	3	2 1	臨床実習を通して実践的な職業教育が実施されている。 【教職員アンケート質問9 3.2】
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	3	2 1	授業評価アンケートを年2回実施し、アンケート結果を全教員で回覧し、より良い授業を実施するためにPDCAの評価材料としている。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	3	2 1	年2回の教育課程編成委員会を開催し、評価を取り入れ、改善に努めている。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	3	2 1	学生便覧に成績評価、単位認定、進級・卒業判定基準を明示し、随時、学生に説明している。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4	3	2 1	資格取得に関する指導体制、カリキュラムが体系的に位置づけられている。 【教職員アンケート質問10 3.3】
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	3	2 1	業界や学生のニーズを把握し、会議を通して共有を図っている。
・関連分野における優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4	3	2 1	令和4年度から実務経験豊富な教員を2名確保した。
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	3	2 1	年3回学園の教職員研修会を開催する等、内部研修は実施できたが、コロナ禍の影響により満足に行われていない。 【教職員アンケート質問11 2.9】
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	3	2 1	新入職員研修会は年内計画に基づいて実施した。しかし、コロナ禍の影響から十分とは言えない。 【教職員アンケート質問12 2.8】

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容や教授法について、更新可能な体制作り ・学生満足度の要素である有意義な授業の充実
--

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師と講師会を通して意見交換を行う。 ・計画的に、相互の授業見学を実施し、教授法や指導法等の向上に努める。 ・学会やセミナー等で得られた情報の共有化を図り、教職員の授業力や質の向上等に努める。
--

③特記事項

<p>コロナ禍の影響から外部との活動に制限があった。</p>

3. 評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・進学率・就職率の向上が図られているか。	4	③	2 1	企業説明会や学生面談で両者のニーズの把握に努める。新規求人先企業の開拓を積極的に行っている。 【教職員アンケート質問13 3.5】 【学生アンケート質問2 3.5】 平均3.5
・資格取得率の向上が図られているか。	4	③	2 1	国家試験対策会議の実施、早期からの放課後補講の実施や個別面談による勉強法の確立に努め、資格取得率の向上に取り組んでいる。 【教職員アンケート質問14 3.4】 【学生アンケート質問3 3.8】 平均3.6
・退学率の低減が図られているか。	4	③	2 1	問題抱えている学生に対して、早期の保護者面談や個人面談、カウンセリングを通して、退学者を減らす対策を講じている。また、スクールカウンセラーによる相談体制も準備している。 【教職員アンケート質問15 2.7】 【学生アンケート質問4 3.3】 平均3.0
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	③	2 1	卒業生の就職先巡回や卒業教育等を実施し、おおむね把握している。 【教職員アンケート質問16 3.1】 【学生アンケート質問5 2.6】 平均2.9
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	② 1	コロナ禍の影響により、情報収集が十分ではなかった。 【教職員アンケート質問17 3.5】 【学生アンケート質問6 3.2】 平均3.4

①課題

- ・基礎学力の改善、主体的な学習の確立
- ・退学率減
- ・国家試験合格率の向上
- ・JLPT合格率の向上
- ・卒業教育の充実

②今後の改善方策

- ・学習に対する工夫と1年次から課題や放課後補講を充実させ、学力向上を図る。
- ・臨床実習やトレーナー部での外部活動を通して学生の満足度向上を図る。
- ・定期的な個人面談、成績不良者に対して追加の個人面談や保護者面談を行い、落伍や退学の低減を図る。
- ・卒業生と定期的に勉強会を実施し、相互連携を図る。

③特記事項

コロナ禍の影響による退学率の増加がみられた。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	3	2	1	就職説明会を実施している。卒業後も学園グループの人材紹介事業を通して、新しい就職情報を提示している。 【学生アンケート質問2 3.5】
・学生相談に関する体制は整備されているか。	4	3	2	1	担任等の教職員への相談や、カウンセラーによる相談窓口を整備している。 【教職員アンケート質問18 3.6】 【学生アンケート質問7 3.6】 平均3.6
・学生に対する経済的な支援体制(アルバイトの紹介)は整備されているか。	4	3	2	1	アルバイト説明会の実施や学生の要望に応じ、随時アルバイトの求人を紹介している。 【教職員アンケート質問19 3.4】
・学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	3	2	1	保健室を整備し、毎年定期の集団健康診断を実施している。コロナ防止に関しては、学園体制として対応した。 【教職員アンケート質問20 3.5】 【学生アンケート質問8 3.5】
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	3	2	1	コロナ禍の影響から機能できていない。 【教職員アンケート質問21 2.9】 【学生アンケート質問9 3.4】 平均3.2
・学生の生活環境への支援は行われているか。	4	3	2	1	遠隔地からの入学者に転居費用の一部補助等の支援を行っている。 【教職員アンケート質問22 3.2】 【学生アンケート質問10 3.4】 平均3.3
・保護者と適切に連携しているか。	4	3	2	1	成績状況、生活状況等、必要に応じて保護者との面談や連絡を実施し、情報共有に務めている。 【教職員アンケート質問23 3.5】
・卒業生への支援体制はあるか。	4	3	2	1	コロナ禍の影響により機能できていない。 【教職員アンケート質問24 2.8】 【学生アンケート質問12 3.3】 平均3.1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	3	2	1	国が定める「職業訓練事業」を受託し介護職についての研修講座を開講している。 【教職員アンケート質問25 2.9】 【学生アンケート質問13 3.4】 平均3.2
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4	3	2	1	今年度はコロナ禍で高校訪問授業、高校でのガイダンス等を十分に実施できなかった。 【教職員アンケート質問26 2.9】

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対して、学生の成績・生活状況等に関する情報提供の機会 ・留学生の生活環境の安定

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談会の開催が難しい場合は、配付物やホームページ等を活用し情報の提供・共有化を図る。 ・トレーナー活動を増やし、課外活動への参加や意欲向上を図る。 ・留学生のアルバイトを含めた、効果的な生活支援対応。
--

③特記事項

<p>コロナ禍の影響から外部活動に制限</p>

3. 評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1		
<p>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。</p>	4	③	2 1
<p>・学内での実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。</p>	4	③	2 1
<p>・防災に対する体制は整備されているか。</p>	4	③	2 1

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境を充実するための施設や設備等の改善 ・臨床実習指導者との連携
--

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・設備面のメンテナンスなどについて、定期点検を実施し改善をする。 ・臨床実習施設指導者と連携をとり、実践的な臨床実習の充実を図る。
--

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学生募集活動は適性に行われているか。	④	3	2	1	募集活動は、ガイダンス等で職業紹介や地域貢献についての説明を行っている。高校生対象の入学試験は10月以降に実施し、適正に行っている。
・学生募集活動において教育成果(目標)は正確に伝えられているか。	④	3	2	1	募集パンフレットやインターネット上で就職率等を正確に伝えている。 【教職員アンケート質問30 3.6】
・学納金は妥当なものとなっているか。	④	3	2	1	他校と比較して平均的な設定となっている。 【教職員アンケート質問29 3.1】

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・少子化や大学進学・県外進学が進行し、専門学校入学者数の減少 ・募集効果が高い広報活動 ・物価高による学納金の値上げ ・教育成果の周知
--

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・高校新卒者・社会人に、職業教育校の魅力ある学校づくりを実施し、データに基づいた効果の期待できる広域的な広報活動を展開していく。
--

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	③	2	1	少子化の中、入学者の確保のため教育内容の刷新を行うとともに、経費節減等で財務の安定化を図っている。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	③	2	1	適切な予算管理を行っている。
・財務について会計監査が適性に行われているか。	④	3	2	1	年間計画に基づいて、年1回の内部監査と事前監査を実施している。
・財務情報公開の体制整備はできているか。	④	3	2	1	理事会を通じ、公開している。

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・少子化や大学進学者の増加による高校新卒者の減少 ・就業状況回復傾向の中での社会人入学希望者の減少
--

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・高校新卒者、社会人それぞれに効果的な広報活動を行う。 ・附帯教育の強化等、新しい事業展開を検討する。
--

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・法令, 専修学校設置基準等の遵守と適性な運営がなされているか。	④	3	2	1	法令や、各種の規則等を遵守している。県の監督部署の指導調査では、概ね良好で指摘された事項は改善されている。
・個人情報に関し, その保護のための対策がとられているか。	④	3	2	1	個人情報管理規定の整備、文書ロッカーの施錠、シュレッダーを用いた廃棄等を実施している。
・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	③	2	1	毎年、自己評価を実施し、学校関係者評価委員会にて審議、協議を行い、改善を図っている。
・自己評価結果を公開しているか。	④	3	2	1	自己評価結果について、学校ホームページで公開している。

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・学園グループ全体のネットワーク情報とセキュリティ管理の強化 ・自己実現の確立と評価法
--

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・個人自己評価・自己目的シートの効果的な運用を行う。 ・法令順守や社会規範・企業倫理に基づくコンプライアンスの意識の向上と体制強化に努める。 ・個人情報の管理について、定期的な研修の場を設け、取扱いの体制を強化する。
--

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	3	②	1	関連団体と連携し、当施設における学術講座の開催を予定していたが、コロナ禍の影響から十分な対応はできなかった。 【教職員アンケート質問31 3.3】
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4	③	2	1	地域の活動にボランティアとして参加した。 【教職員アンケート質問32 3.4】 【学生アンケート質問17 2.2】 平均2.8
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。	4	③	2	1	職業訓練生を受託している。また、関連する専門資格者による各種研修や、公開講座の開催を実施している。 【教職員アンケート質問33 3.6】

①課題

・学校の立地や設備における利用法

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・様々な団体と連携し、学校内の施設を利用した社会貢献と地域貢献の機会を増やす。 ・地域や自治会等から依頼されたボランティア活動へ積極的に参加する。
--

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(11) 国際交流

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・留学生の受入れについて戦略を持って行っているか。	4	③	2 1	日本語科留学生の卒業後の進路設計を行いながら、担当者が現地へ赴き、質の高い留学生の獲得に努めている。
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	4	③	2 1	留学生の受入れについて、慎重な審査を行ったうえで適切な入国管理手続きを行っている。入国管理局の指導のもと、適切な手続きを通して留学生の受け入れ、在籍管理を行っている。 【教職員アンケート質問34 3.6】
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4	③	2 1	留学生担当の教員、事務責任者を配置し組織的な学習指導体制の整備を進めている。清掃、喫煙等、寮での生活のあり方は、充分ではないが改善されつつある。 【教職員アンケート質問35 3.2】
・学習成果が国内外で評価される取組を取っているか。	4	③	2 1	上級学校への進学、その後の就職のために日本語能力試験(N2, N3)の合格者を多数輩出するための指導を行っているが、国際的な評価を得るまでには至っていない。 【教職員アンケート質問36 2.8】

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・多様な留学生に対する日本文化の理解 ・学習意欲の啓発 ・希望進学先の開拓

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、コロナの影響もあり昨年度同様の制限された中での活動となったが、来年度は地域行事への参加等を通して日本の生活文化に触れさせたい。 ・今年度は限られた学校への進学対応であったが、来年度はコロナの水際対策緩和後に一気に入国した学生の進学が集中することになるため、来年度は多数の卒業生を送り出すこととなる。他の日本語教育機関も同様に進学者が多く見込まれるため、専門学校や大学等、希望する進学を実現させるために、早めの進学支援等にも配慮したい。
--

③特記事項

なし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和4年度重点目標に対する総括

- (1) 授業の充実と国家試験合格率及び就職率の100%達成
 - ① 高校までの学習習慣を踏まえて、専門学校における勉強法を確立させた。
 - ② 計画的に新任研修・職員研修や学科会を定期的に開催して、学生の実態把握や指導方策、授業の創意工夫に努め、教育の質の向上を図った。
 - ③ スポーツ柔整科の国家試験合格率は、100%を達成したものの国家試験受験に関する判定に課題を残した。
 - ④ 低学力の学生に対する関わりを持ったが、結果として退学者の減少につながっていない。
 - ⑤ コロナ禍の中、個別面談や事前指導、1年次からの放課後補習を可能な限り実施できた。
- (2) 自立する職業人・社会人の育成
 - ① 本校は、「真の職業人」を育成することを目標とし教育を推進してきた。
 - 患者や利用者目線で考える力を持つ。
 - 社会人や専門職としての自立した意識を養う。
 - 医療人としての専門知識・専門技術を持つ。
 - ② 医療人を目指す学生に対して、専門家からの知識と技術を身につける教育を行ってきた。
 - ③ コロナ禍だったため、地域のボランティア活動や各種講習会等に参加することが難しかった。今後も、学内では学べない教育の機会として積極的に参加や周知を行う。
- (3) 留学生教育の充実と基本的生活習慣の確立
 - ① 令和4年3月にコロナウイルスの水際対策による新規入国制限の見直しが行われ、令和2年度以降に入国を待っていた学生99名が一斉に入国することとなった。但し、入国後の活動においては、影響があり、昨年度同様の制限された中での活動となった。来年度は、学外の地域行事も含め活動範囲を広げていく。
 - ② 12月に受験した日本語能力試験の合格率は60.41%と入学年度の成績としては良好であった。引き続き試験合格に向けた指導を行う。
 - ③ 学外での寮生活やアルバイトを含めた基本的生活の習慣については、今後の進学や就職を見据えた継続的な指導を行う。
- (4) 「個人自己評価」と「学校自己評価」による人材育成と学校活性化
 - ① 令和4年度から、「学校自己評価」(年2回)に加えて、「個人自己評価」を適宜実施した。各教職員が自己目標を掲げることで、本人の通常業務と学科の方向性に相違が無くなり結果として学校目標に沿う形をとることが出来た。
 - ② 「学校自己評価」に見られた特徴として、次の項目が顕著であった
 - 目標の細分化
 - 数値化
 - 段階的な目標設定
 - チームの中での役割や業務分担
 - 他部署との連携
 - ③ コロナ禍での3年間は、けっして満足のいく教育や自己研鑽の機会がとれなかったが、「個人自己評価」の実施や新任教職員研修は有意義なものとなった。
- (5) 学校体制として取り組む学生募集—最低確保学生数25名
 - ① スポーツ柔整科の定員30名に対して、令和5年3月30日現在で17名の入学予定者となり達成率は56.7%である。
 - ② 入学予定者17名中、高校生13名、社会人4名で昨年度に比べて3名減の結果となった。原因として、昨年度より来校者は8名増加したが、是非入学に繋がらなかった。学校検討者に対して、選ばれる結果となっていない。次年度は、オープンキャンパスの見直しと実施後のフォロー徹底が必要であると考えます。
 - ③ 今年度の退学者は、8名であった。全体の14%を占めており具体的な対応が必須である。今後は「こころ医療に入学した学生は、必ず卒業させる」と信念を持って指導にあたり、教育の責任を果たしていく所存である。

5. 学校の教育目標 令和5年度

- 1 学園ビジョン
地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる。
- 2 学園ビジョン実現に向けたテーマ
地域社会から必要とされる組織であり続ける。
地域社会から必要とされる人材を提供する。
- 3 学校経営スローガン
各学科の「専門力を含めた人間としての総合力」の育成
- 4 重点教育目標
 - (1) 国家試験合格率及び就職率100%達成
 - (2) 自立する職業人・社会人の育成
 - (3) 留学生教育の充実と地域社会に順応した生活習慣の確立
 - (4) 「個人自己評価」と「学校自己評価」の実施による資質向上と学校活性化
 - (5) 広報活動と学生募集の強化 — 入学者数30名定員を目指す
- 5 具体的な対策
 - (1) 「授業の充実」を通じた「教育の質」の向上
 - (2) 自立する職業人への準備教育の推進
 - (3) 退学者・不登校生の減少対策の推進
 - (4) 国家試験。進路指導の充実
 - (5) 留学生教育の質の向上と基本的な生活習慣の確立
 - (6) 教職員の「自己評価制」によるスキルアップ
 - (7) 学生募集の強化
- 6 地域社会等との豊かな関係づくり
 - (1) 学園グループビジョン「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」の具現化
 - (2) 関係各校、機関、施設等との連携強化

6. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画

- (1) 「授業の充実」を中心に置いた学校経営の推進
 - ①「教育の質」の向上を通じた学生や保護者の願いに応える教育の推進
 - ②学生の「意思ある学び」に繋ぐ教員の学生指導力と学級経営力の向上
 - ③学生の多様化・学力低下傾向に対する創意工夫と粘り強い指導の推進
- (2) 国家試験合格率及び就職率100%達成
 - ①各学科の「国家試験年間指導計画」に基づく計画的・組織的な指導の推進
 - ②「学科会」の定例化と「模擬試験結果分析会」や「学力検討会」の開催
 - ③個を重視した「キャリア教育」と年間指導計画に基づいた就職指導の推進
 - ④「導入期教育」と「卒後教育」の充実
- (3) 留学生教育の質の向上と日本語能力試験N4以上全員合格の達成
 - ①留学生の指導体制の構築と学園内連携の強化
 - ②日本語能力試験での全留学生のN4以上合格達成と進路開拓
 - ③日本の基本的な生活習慣の確立
- (4) 学校体制として取り組む学生募集—最低確保学生数20名
 - ①高校との連携強化と信頼関係の構築—学校訪問・情報提供・広報啓発等
 - ②学校体制としての学習募集の推進—広報課を中心に全職員で取り組む学生募集
- (5) 報告・連絡・相談等による情報の共有と職場の活性化
 - ①すべては初期対応が命と考え、早めにまめにを基本とする
 - ②学科会を定例化し、情報の共有を図る
 - ③独りよがりな判断、対応をせず、学校としての的確な対応をする